

エペソ人への手紙 第4章 4節

「からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。」

一つであることが様々な事柄から示されています。この言葉を受けた教会には互いの異なりから思わしくない状況が生まれていたからでしょう。世界では互いの異なりから争いが絶え間なくあり、悲惨な戦争が止むことなく起っています。これらの争いを回避するように対話を心がけます。それでも、争いは続きます。願いとはまるで逆の歴史が繰り返され、続きます。

そのなかで教会へ、一つの真実を語ります。彼らが互いに会話し、認め合っ一つとなることではありません。そうではなく、手紙の言葉を聞くことです。「からだは一つです。」各自のからだが一つであることも思われますが、ここはキリストのからだ、教会が一つですと聞けます。「御霊は一つです。」神の霊が一つです。そして、「各自の召しと望みは一つです。」

それぞれが異なった国籍を持ち、育ちの背景で、性格を持ち、キリストのからだ、教会とされています。異なる者たちが、みことばを聞き、それぞれ異なった賜物を用い一つのみからだ、教会を建て上げます。異なりは、それを豊かに用いてくださる主の下に一つの力、いのちとされます。

2022年8月11日